

特殊報第1号

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員  
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成19年度病虫害発生予察特殊報第1号について

このことについて、病虫害発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

キュウリ

- 1 病虫害名                    キュウリ退緑黄化病（仮称）
- 2 病原ウイルス名       Cucurbit chlorotic yellows virus : CCYV（仮称）
- 3 発生地域                    久留米市、朝倉市、筑前町
- 4 特殊報の内容
  - （1）初発生確認の経緯  
平成16年以降九州各地でウリ類に発生した原因不明の黄化症について、発生要因解明等の共同試験（農林水産研究高度化事業）が行われた。これによりクロステロウイルス科クリニウイルス属の新規ウイルスが検出され、タバココナジラミバイオタイプQが媒介するウイルス病であることが明らかになった。  
本県においても2月中旬に黄化症状がみられるキュウリの葉を採取し、（独）九州沖縄農業研究センターに診断を依頼したところ、本ウイルスが検出され、本病であることが明らかになった。
  - （2）感染植物  
現在までに感染が確認されている植物はキュウリ、メロン、スイカである。
  - （3）症状  
葉に退緑小斑点を生じ、斑点が拡大・癒合しながら葉脈に沿った部分を残して葉全体が黄化する。キュウリでは、葉縁が外側に巻く症状がみられ、黄化による草勢低下及び果実品質の低下が認められる。
  - （4）伝染方法  
現在、本ウイルスはタバココナジラミバイオタイプQによって媒介されることが明らかになっているが、媒介するコナジラミの種類（タバココナジラミのバイオタイプ）や媒介に関係するウイルスの特性については明らかになっていない。ただし、クロステロウイルス科ウイルスは半永続性媒介で経卵伝染や汁液伝染、土壌伝染、種子伝染はしないことが知られている。

## 5 防除上注意すべき事項

- (1) 0.4mm目ネットを使用する等して媒介虫であるタバココナジラミの侵入を防止するとともに、侵入した個体を薬剤で防除する。特に、育苗期から生育初期に感染した場合、経済的な被害につながるなのでこの時期の対策を徹底する。
- (2) 黄色粘着トラップを施設内に設置し、媒介虫の早期発見に努める。
- (3) ほ場内やほ場周辺の雑草は媒介虫の発生源となるので除草を徹底する。
- (4) 発病株は伝染源となるので、直ちに抜き取り土中深くに埋没するかビニル袋に入れて完全に枯れるまで密閉処理する。
- (5) 施設栽培終了時には、ハウスを密閉して蒸し込み、媒介虫を死滅させる。



左上：発生初期の退緑小斑点、右上：症状進展後の葉の黄化、下：株全体